

Date	Locality	Remarks
96-9-26		Nandyal, Andhra Pradesh へ、Dr.Seetharamの視察旅行についていく。車中2泊4日 1915頃発。夜行バスでBangaloreを出発する。旅程図ある。
96-9-27		630、Nandyal に着き、研究所からの出迎いで、ゲストハウスに行く。紹介講義メモは省略。 12795km、930。町から丘に向かい、すぐに食堂に行く。Idli を食べる。 796km、230m、958。プラの多い町だ。今年は雨が例年よりも50%は多くて、畑の準備が遅れている。南東に向かう。 昨夜の雨でひどくぬかるんでいる。 799km、1008。川を渡る。町外れは水田が多い。 1014。陸橋を降りて、結局は右折する。Regional Agr. Res. Stationに来る。アワの圃場を見てから、30分ほど 研究紹介をする。 1429。発。昼食に行く。 809km、1436。町に入ると混雑している。日差しは強くて少し暑い。これほど雨が降りながら、不思議にすぐに乾き、 ほこりっぽい。人力車はすこしある。 1520。ゲストハウスに戻り、20分休んでから、100kmほどのところに行く。 12824km、275m、1610。ワタの畑が多い。 843km、330m、1639。丘陵地に入り、北西に向かう。土壌は薄い。 880km、425m、1713。岩地地帯を過ぎる。岩の間に、イネが栽培されている。モロコシは畑の端に見られる。 途中はワタの畑が多かった。 884km、395m、1717。アワの畑があり、20-30aほどの広さであった。トウジンビエもトウモロコシもあった。 快適な走行、80km/hr。 895km、1728。川を渡し、大きな町 Kurnool にはいる。
96-9-27-1		915km、370m、1745。Penchikapadu 村。 アワの改良品種と在来品種の畑。暗くてよく見えないが、在来品種の穂を採集する。 アワは korra と呼ばれている。改良品種 Narashimraya と在来品種が隣接して栽培してある。 6月に播く早生、村人に品種について聞く。順次改良品種に置き換わりつつある。 ここでは、パーボイル加工やしとぎは行なっていない。村農家の40%がアワを食べている。 アワは1kgで5Rs50P であるが、イネは 15Rsもする。 アワの食品: ① annamu、アワを精白して作る。これが主要な食事になっており、rassum, dal, sambar または バターミルクを掛けて食べる。② 製粉して、砂糖を加えて菓子を作る。これは油で揚げる。③atharasam はパンケーキ である。ここで帰途に着く。 お寺の近くのゲストハウスに泊まる。朝5時に起きてお参りに行くというので、すぐに寝る。蚊がいるので蚊取り線香を炊い たが、埃があり、風邪を引いているのでせきがでる。 水が濁っているので、顔も洗わずに、シェラフカバーの中に入る。ベッドは枕とシーツのみ。この部屋には、ベッド2、いす2、 ほうき1、トイレ兼バス用バケツ2、ポット1、コップ1、水汲み壺2、前室付だがこれですべてである。 参詣の人が泊まるところで、大会社などの寄付による物のようだ。
96-9-28		Mantralayam 地名。

430に起きて待っていたが、結局7時になった。おまわりさん、どうもゲストハウスの管理人らしい人から、ドティーを借りて、着替えて寺の中にはいった。世俗の衣は脱ぐということなのであろう。5時から説教の音がし、音楽はなっていた。川はKarnatakaとAndhra Pradeshの州境となっているが、その合流点に位置しているようだ。今年は雨が多すぎると言うことだが、泥水で沐浴してから、寺の中にはいり、祈り、本尊を拝させていただいた。本堂の周囲を3回転がる、体を投げ出す、などいろいろなスタイルで祈りをささげている。どうも貧しい人々を救った偉い人、いわば神の化身が祭られているのであろう。多くの信者が集まって、門前市をなしている。

10時頃まで、研究打ち合わせとのことなので、一人でlimca を飲みに行った。Mineral water まで普及していて、以前のようにgaran pani を頼まなくてもすんだ。良いとは思えないが、助かる。ここで頭を丸める若い人、子供、ショートカットにする女の子も多い。女性は寺の途中までしか入れない。

copi (コーヒー)屋の道具の図あり。

ヒマワリの畑、モロコシとトウジンビエは路上で脱穀をしていた。

96-9-28-1 365m、1125.

アワの畑。改良品種のNashimraya はベンガルグラムの後に播種する。生育は非常に良い。出穂、登熟中で、5エーカー作付けしている。在来品種とともに隣接の畑に栽培されていた。数ヘクタールはある。

株間 約60cm、草丈 150cm、穂長 20cm、株元での分けつは2-5.

アワとイネの2:1混合比のめしを見せてもらった。混合比はいろいろであるが、混ぜるとおいしいと言う。Sambar をかけて食べる。アワは白く見えた。

農業改良普及員のような人が待っていて、モデル農家を訪ねた。大きな会で報告するらしく、一緒に写真をとった。

案内の人の家でアワご飯を見せてもらった。

遅い昼食をとって、Adoni 駅、470m、でBangalore行きの列車を待つ。駅員がいなくてキップを買えない。

1705に発車。1343の予定が遅れた。これでも幸運で、次の列車は21時発である。

トマト、落花生の畑がとても多い。広いアワ畑があるが、トウジンビエと混作している。町でトウジンビエ jowar のroti を売っていた。

Beggarsのこと: Seetharam さんは、町ではあちこち歩くpro がいて、彼らは金持ちなので、出さないが、田舎は本当に貧しいのだから出すという。カルナタカよりもアンドラプラデシュのほうが貧富の差が大きい。デカン高原にぽつぽつと岩山が見える。そろそろ、落日が近い。間性の人が金をくれといっている。それが金を取る理由になることを理解できない。

女性の格好をしていたが、Seetharamさんは1Rsを出した。小生には出さなくて良いという。信じるかどうかは別だそうだ。

特急列車にどうして物乞いが乗って、集金するのか不思議である。彼らは何100Rsもの料金を払えるのだろうか？

それとただ乗りする福祉的特権があるのだろうか。これは説明が困難なのではないのか。農婦の労働が1日10Rsとするなら、物乞いほど楽な仕事はないのではないか。10人から1Re でも、立派な昼食代になる。気のむらで付き合えばよいのだろう。

稲妻(雷)が 静かに光る 暗夜かな Quiet light of far sundders, real dark

駅は動物園のようなものだ 多くの動物がここにやってくる ブタ、イヌ、などなど

96-9-29

96-10-21

Coimbatore, Tamil Naduへ同行。車中2泊5日

1900頃に停電、トーチでガスや電気を何度もチェックする。2000前にShivanandaiahさんが見に来る。20時に出て、2018

96-10-22

のバスに乗る。Main Bus Stationには2100前に着いた。
2130. Seetharamさんと待ち合わせの予定。Jabbar Travelsのバス。
MainGateで会えず、会社前からバスは出るというので、待っていて、2220に会えた。物凄い人出で、夜に人を判別するのは不可能に近い。若干、諦めかけていた。半月の明かりがあつてよかった。
190m、610. Bavani, Coimbatore まで後、100km 強ある。
630に日が出たので良く見えるようになった。185m。パルミラヤシが散在している。予定より2時間遅れのような。気温は快適だが、HWIは排気ガスがひどい。
水田は多くあるが、雑草が茂っている。これから植える田圃、植えたてなど、いろいろある。
ココヤシのプランテーション。トウジンビエが多くある。水稲も生育中のものがたくさん見えてきた。サトウキビやバナナも少しある。ウコンの畑もある。
240m、646. ヤシの葉葺きの家も多い。パルミラヤシ、ココヤシ、水田の景観である。水田は3-4a区画である。改良品種のモロコシ畑がある。
275m、651. イネよりもモロコシの畑が多い。少し標高が上がるだけで、はっきりと変化してくる。
Dasara祭りの飾り付けがまだたくさん残ったままである。天気は良い。テレビ用のパラポラアンテナが時々ある。
2種のヤシとモロコシが多い。ヒマもある。赤土である。モロコシばかりが続く。矮性の改良品種であろう。
タマリンドの木の下も、モロコシである。
335m、730. Tirrupurを通る。数名が降りる。
395m、803. ガソリンを入れる。良い天気だ。モロコシの畑ばかりであった。丘陵地が見えるところに来た。
420m、851. Coimbatore 大きな町で、にぎやかである。ICAR-TNAU (Hybrid rice) のジープが待っていた。
2時間ほど待たせたようだ。すぐに、TNAUのゲストハウスに行く。少し休んで、1000には、学部長や遺伝科長のところに行き、その後昼食。
1230. 家政大学に行く。Home Science College.手紙が届いて、意味不明。学部長には会えたが、本日は約束があるので、明日の945以降に来るようにいわれた。
1430. TNAUに戻って、15時から1時間ほど講義をした。その後、雑穀の圃場を見に行つた。Hostellに戻って、しばらく休み、1930頃、夕食に出た。2名の教授夫妻と、Seetharamさんと、突然訪ねてきたDr.xx と一緒であった。
2200過ぎにHostellに戻って寝た。教授のうち一人は、今月で定年60歳という。3人の息子の末子が東京医科歯科大学に留学しているとの事。帰国する際に荷物を頼まれた。また、子息を自宅に招待するといった。
700朝食、800のバスでSeetharamさんを見送る。その後、所長宅に行つてから、大学に行き、環境科学と、植物園、標本庫を訪ねた。100年ほど前の標本が見れてよかった。特に、*Digitaria sanguinalis*など。昼食に3人で行き、またHostellに戻って、2時まで休んでHome Economy Collegeに行く。15時から講義、新聞に案内を出したようだ。14時過ぎについて学部長の婦人に何故午前中に来なかったのかと叱られた。もったもである。時間があつたので、博士論文を見せてもらう。Tribeの人のサマイの利用法とか、栄養についての内容で、Taka Thomus だか、Marshalだかの、1996. コピーできないか聞いてもらうことにしたが、あるいはSeetharamさんがコピーを持っているかもしれない。現地にいる人でないと書けない、優れた仕事である。著作権のことがあるので。
15時から講義をして、お土産に布地をいただいた。大学自家製で、マハトマガンジーの教えに従って、織つたもので、ぜひ、インドにいるうちにシャツに仕立てよとのことであつた。17時前に、TNAUのSchool of Genetics に戻り、hostellに着いた。

96-10-23

明るいので、Horticulture College の農場を30分ほど歩いて、部屋に戻った。Dr.Ramaswamiの宿舎によってサボテンを見せてもらった。あしたは530に出かける。夕食は彼の宿舎が近いので、誘われた。研究助手のようだが、野心あるいは生活改善、地位向上を考えているようだ。明日は彼とバスでOotyへ行く。地図に地名が見えないが、80kmのところにあるHill Stationのようだ。

1930にDr.Ramaswamy宅に夕食をいただきに行く。100mほどのすぐ近くであった。Idli2、dosai2 をいただいた。マッシュルームのカリーとチェトニー。リンゴとバナナであった。ご夫人はいくつかの大学を出て、他大学で講師をしていたが、今は育児のために仕事をやめている。再就職は困難であると言う。AssistantProfessorで、学位もっており、論文もあるが、これがここではどのような地位なのだろうか。彼は他にpostを求めている。Bangaloreの人々と比較して、質素な生活である。サボテンの収集が趣味のようである。530に出るとの事なので、2100過ぎには寝た。体調は良好である。

430に起きて、ノートを書き足す。荷物の整理。少し暑く、寝ていても汗が滲んでくる。早暁でも少し蒸し暑い。天気は良く、朝焼け、かつ7割くらいの月が出ている。日本人はpancutualといわれているので、530過ぎに出ることにする。

550にバスが出て、Ootyに向かう。

475m、615. 朝陽が昇る。モロコシが多い。

375m、635. 完全に陽が昇った。草地、モロコシがあり、サトウキビは稀である。丘陵地が多く見えてくる。

340m、638. 一旦標高は下降している。

305m、642. BusStandに着いた。休憩のようだ。良い天気である。1/3は女性客で、Nirgilsに観光に行くのであろうか。

657. お客が戻ってきて、山地に向かう。ココヤシのプランテーションが広がる。バナナ園もある。アレカヤシだろうか、密植されて、細長く伸びている。

320m、706. 再び登り始めて、丘陵地に入っていく。すぐに鉄道をわたる。バナナと細いヤシ。ヤシは建材にするのであろうか。林床は貧弱である。ずっと登りである。

355m、711. ココヤシが稀に生えている。

370m、右に広葉樹林、ヤシ林はなくなる。

460m、716. 九十九折のヘヤーピンカーブである。広葉樹のジャングル。

540m、720. 熱帯林が続く。

705m、728. 溪流を渡る。森林は続く。

735m、732. 竹林がある。赤い土壌であるが、腐植の蓄積はある。マント群落は発達している。

バスは35-40km/hで登坂している。

855m、736. トラックを追い抜いていく。良い道である。10mくらいの滝があった。2mくらいのユッカが多い。

左側に、細いヤシが少しある。

1005m、743. 針葉樹が少し出てくる。

1100m、748. 正面に絶壁がある。Rudobekiaのような黄色の花が多い。濃いオレンジの花はSalvia sp. ピンクのショウマもある。青紫のアサガオが多い。ランタナはピンクとオレンジ色の花である。

1205m、757. 森林鉄道があった。Ootyまで20kmの地点。Colocasiaの野生が少しある。ヒマもある。アサガオがきれいだ。

1335m、803. 茶園が見えてきた。左手のテラスは日当たりが大変に良い。立派な溪流を渡る。茶園を縫って走る。

クワズイモが庭に植えてあった。涼風が入ってくる。村を通過する。Tulip treeもあり、このあたりはBangaloreに似た植生に見える。

1465m、811. 山腹は茶園である。モクマオのような木がある。Coonoorの町が見える。
1576m、816. ヒノキのような大木がある。針葉樹が稀に出てくる。しかも孤立の大木である。鉄道に歯がついている。
1610m、818. Coonoorに着く。大きな町だ。半分くらいが降車する。そして別の人たちが乗った。相変わらず、美しい町だ。ユーカリとモミに似た木が少しある。マツもある。観光地らしく、英語が多くなってきた。針葉樹の苗圃がある。大きなパラポラアンテナがそここにあり、世界の電波が届くのであろう。針葉樹が散在している。
1945m、844. まだ茶園がある。AgaveとAloeが咲いていた。美しいNirgil Hills である。ホテルが多い。草原になっている。
2085m、852. 母岩の露頭が多くなった。冷涼な風が吹いている。アザミ、カンナ、すごく多いエニシダの花々が多い。ジャガイモ畑。看板だらけである、Holiday Innまでである。高級ジープもリキシャもある。美しい町だ。
2095m、913. 観光地、Totapata town、Ooty につく。
その後、パンを立ち食いして、Botanic Garden に行く。オオムラサキなどのツツジがたくさん咲いていた。アジサイも日本の植物として植えてあった。面白いことに、オオイヌフグリやナズナ、スズメノカタビラなどが今咲いていた。日長が早春ということなのだろうか。タネツケバナも1個体開花中のものを見つけた。ミチバタガラシは多くはないが植物園内や路傍に見られ、やはり開花の始まり頃であった。Nirgil Hills は温帯の雑草が入っているところであろう。植物園では映画の撮影中であった。100周年を迎えたばかりであるが、やはり英国人が創立したようだ。園内には詩を書いたプレートが所々にあり、英国人の植物好きがしのばれた。
TNAUのBotanic Gardenも英国人が造ったもので、今ではジャスミンとキクの大きなcollectionがある。
その後、昼食、小さな湖に行って、天気が2時には変わるとのこと、下りのバスに乗った。5時半頃着いて標本作りを始めた頃に、Prof. Vaidyanathan が夕食を誘いに来た。記憶にはないが、どうも11年前に会って、一緒に写真をとったようだ。2人の息子と、1人の娘さんがいる。彼女は父親が言うように確かに日本人的な顔立ちだ。先ごろ結婚して、Delhilにいるそうだ。やはり大学が土地を買って、staffに分譲している。郊外に少しずつ家が建っている。夕食をいただいて、2000頃、hostelに戻り、直ぐに夜行Bus Standに送ってもらった。1時間早かったが、乗って待っていた。
2220に出発して、
700過ぎにBangaloreに着いた。リキシャでYelahankaに戻った。
夜行バスが約350km、8時間で、140Rs。リキシャは約20kmで、30分、200Rs。この違いは何だろうか。
Bangalore → Salem → Coimbatore → Coonoor → Ooty (Uthagamandalam のこと)、同じルートに戻る。

96-10-25

96-11-5

晴天、Yerahanka, 895m。Ashokさんと行く。話しはまず彼の意見である。運転手はMr.Kumar。
9150km、875m、920発。ユーカリの植林が多い。Carifolnia Resort の前を通過する。ブドウの畑が多い。
930. 両側にモロコシとシコクビエragi の混作畑があり、ラギは登熟中である。Rajokhte の町を通過する。
9160km、933. ブドウ、ユーカリ、ココヤシの畑が続く。左手に、ラギとモロコシの混作畑が少しある。右は鉄道に沿っている。nigerseedがラギに少し混ざっている。右手にNandi Hillを見る。稲田が少しある。
9167km、860m、939. Doricosマメも少し混ざっている。Musterd, redgram, cawpea を混ぜることもある。
2-3回、十字に中耕して除草する。有機物は2000kg/エーカーを1ヶ月前に鋤き込む。雨が降ったら直ぐに播種する。
7月にモンスーンの雨がきたら播く。アワも間作する。Brachiarialは8月末に、散播する。モロコシを混作することもある。
茎葉はウシの飼料にする。2x2回、畑を十字に耕す。鉄道を渡り、左に見て、また直ぐに渡り、右に見ている。
9177km、951. Duddaballapur を通過した。小学生が学校に向かっている。
Redgram とDoricosを混作することが多いという。

ラギの栽培法: 有機肥料は1ヶ月前に与える。ラギ以外の雑穀は有機肥料のみで栽培する。ラギはKがいるので、N(Urea)ほか化学肥料も与える。散播すると集団が大きくなるので、10-15日後に、クロスして除草し、間引きをかねる。農民は協力し合って、畑の管理をする。

*Brachiaria ramosa*は普通は1回中耕をする。収穫は早朝に行う。Nigerseedの単作もある。

9189km、895m、1020. ラギの収穫が始まっている。

畑が斜面の時は、平行に畝を作る。間作は、13列のラギ、1列のモロコシで、モロコシの間の距離は約3m。畑の周囲にはnigerseedまたはヒマを播く。図あり。

ラギを株刈した時は畑で乾燥させるが、移植栽培したときは、穂刈して、家にもって帰って乾燥させる。

ここではラギが主作物で、モロコシを少し入れて、さらにnigerseedを加える。

9198km、755m、1028. 溜池の下にイネが作られている。ココヤシの下が水田のことも多い。移植栽培されている。

日陰のところの生育が良い。

トウモロコシの畑もあるが、これらはポップコーン用である。もう植物は枯れ始めている。黄色種子のトウモロコシ、脱穀機がある。サトウキビとpigeonpeaが少しある。右に水田が多い。KalinYanakahali を通過する。

ラギを収穫して、束のしまを作っている、直径100cm、高さ150cm。ここで干してから家に運ぶ。左手に鉄道、汽車が通る。川辺にはサトウキビが栽培されている。製糖工場が多い。

9207km、1041. Bangaloreが近いので野菜栽培が多いのであろう。トマト、ジャガイモ、換金作物。

pegonpea (redgram) が間作されている。トウモロコシが多く栽培されていて、収穫調整をしているところである。

丘陵地帯にはユーカリの植林が多い。

9218km、1053. お茶の時間。Gauribidamur 町。

1106. 左折して、Madugil に向かう。鉄道をわたる。SLが約20両で通過した。

Madugili は著しい乾燥地帯で、korne は耐乾性のゆえに栽培されている。早朝に収穫される。

ラギの後作は落花生が多いが、降雨の条件による。本年は雨が多く、良好な生産量である。

茎葉を干して積む。図あり。畑でラギを広げて、干した後に、畑に山を作ってさらに干す。おおよそ1mの幅と高さになる。穂先が下向きになる。

瓦屋根の家と藁屋根の家の両方がある。

ラギを路上で、自動車に踏ませることにより脱穀していた。クワの畑も少しある。サルが2匹いた。

9233km、1130. トウガラシ干しとラギの脱穀をしていた。

9237km、645m、1138. ラギは多い。道路は舗装されているが、2-3m以下の細さである。

バナナは少なく、ヒマが多い。サトウキビが開花中である。マリーゴールドの畑がココヤシの下にある。蚕だなが干してある。

この地域は間作の幅が狭い。Doricos lablabがあった。

ヤギが多い。かなりラフな畑で、乾燥地の感じがする。畑の境界にヒマを植えている。雑草ケイトウ、Celosiaが多く見られる。

溜池は所々に見られるが、しかし、ラギはほとんどない。未舗装道路に入る。

落花生、トウモロコシを干している。Chili、ヒマ、redgram、トウモロコシが多い。Doricosもある。

96-11-5-1

9245km、655m、1154-1246. Kalidevapura 村、Kochigenahalli Hobli, Madhugiri taluk, Tumkur dist.

畑abcで収集する。①a; kodo の畑に*S.glauca* が少し混ざっている。②b; korne 畑。③c; kodo 畑。

○ korne の食品は ① roti。② nuchina = ragi mudda; 粗挽き粉を煮てから、ラギ粉を混ぜて、ボール状にする。

S.glauca も食べる。

この地域は良い土壌ではない。Korneの収穫は始まっている。畑の穂はよく乾いていたが、脱粒はしない。できるだけ手を掛けない、肥料は入れていない。

○ kodo の食品は ① anna。② nuchina ragi mudda; 粗挽き粉(20%)を煮てから、ラギ粉(80%)を混ぜる。ボール状にする。好みによって割合を変える。(それぞれ別に煮てから混ぜると言うことか。Nuchinalはkodoの地方名か?)
③ roti。④ レモンライスにして、card と食べると大変おいしい。

休憩して、tendar coconuts を飲む。若いココヤシの実をこのように呼ぶようだ。4-5Rs.

左手にはイネとモロコシ。10年生くらいのユーカリの林がある。

- 96-11-5-2 9256km, 660m, 1400. サマイ、コルネ、アワ、モロコシなどいろいろ混ざっていて、weedyやrelativesもあり、とても面白い畑である。Brachiaria ramosaはcompact=close type が、open type よりも圧倒的に多い。Openは稀に混ざっているのみである。
モロコシ、nigerseed、pigeonpeaの混作が多い。
種子屋さんの故郷の村に行く。落花生を脱穀調整中であつた。実を乾燥させていた。ここで葉を焼いて、食べさせてもらった。その後、彼の実家に行った。

- 96-11-5-3a 9259km, 660m, 1521. 自宅前の畑。

- 96-11-5-3b Brachiaria と horsegramの混播の畑。Celesiaが多く侵入している。

- 96-11-5-3c korneの単作畑、生育良好である。

- 96-11-5-3d 9269km, 660m, 1623. Mr. Ramapraの畑。Annenahalli、Kodigenahulli Hobli, Madhugiri talck, Tumkur dist. korneの単作畑。

- 96-11-5-4 9261km, 1638. Korneは少し日陰が生育良いので、木の下に播くことも多い。
木の下で生育が良いのは日射が少し弱いとこと。若干水条件が、乾燥の程度が和らぐ?。あるいはマメ科の木の近くではNが摂取できる? など考えられる。

Korneはすでに収穫した跡の畑も多い。

- 96-11-5-5 Mr. T.D.Gopal gb Dalapra, Theriyur village, Kodigenahalli Hogli, Madhugiri talck, Tumkur dist.

kornike と呼称している。これには2types がある。Open と close=compact な穂を持つものである。Compactがほとんどで、openは稀に混入しているに過ぎない。毛の多少については確認が困難であつた。

(作物としてかなり洗練度が高いということか)

農道にはいったので、ルートを追うことができない。イネ、サトウキビ、トウモロコシが多い。クワ、ヒマも栽培されている。トウガラシも多い。

- 96-11-5-6 9265km, 1732. コルネ畑。2回雨が降れば生育できる。播いて収穫するだけ、2回の作業でよいので楽である。
食品は:① dosa にすると良い。② anna。③ nippatu (roti に似たもの);コルネ粉に落花生の砕けたもの、トウガラシの粉などを混ぜる。油で5分揚げる。④ mude イネ、コルネの砕けた穀粒とragi 粉を混ぜて作る。
アワの畑にはSetaria viridis が侵入している。これは紫色の穂をしていて、脱粒性で、人は食べない。
ジャングルライス? はfodder にする。

- 96-11-5-7 9267km, 1740. Kodoの単作畑、登熟中で生育は良好である。ここに1個体のSetaria glauca、非脱粒性、が生えていた。
(重要: KarnatakaとAP州境にkodo随伴の栽培型S.glauca (syn. S.pumila)がごく稀にあったということを示している。)

夕陽が沈む少し前である。モロコシ、pigeonpea が多い。右手に湿地が見えた。低地にはイネが栽培されている。クワを運んでいるウシ車を時々見る。

1900前にMadhgiriのInspection Bangalow についたが、許可を取るのに40分くらいかかった。

Madhugiri 周辺の農道を回った。いくつかの村に行ったが、細い道は地図で追えない。図あり。

Madhugiri, Hinlupur, および Gaudibidanur の間の農村地帯を調査したと言える。

水曜日、晴れ。6時に起きて、洗顔、ノートの整理。

Madhugiri は岩山の下にあり、ヒンドゥ寺院とムスリムのモスクもある。岩山は城砦で、500年前の物と言う。Ashokさんの兄弟は男6、女1だが、彼は娘2人。兄弟は皆1人ずつの子どもで、政府が1-2人を勧めている。9億以上の人口。妹はHustonにいる。芸術から科学技術まで、広い分野の職業についている。

700aにcoffeeを飲む。どこでも小さなコップで飲む。たくさん飲む習慣はないようだ。シャワーは朝する。ここは爆竹はまだやっていない。田舎町で静かが良い。リキシャはあるが、大気汚染は少ない。

9348km, 735m, 826a. idliを食べる。

9349km, 847a発。Bus stand, 2人とも下車して別々にどこかに行ってしまった。お参りにでも行ったのであろうか。

再び、villageに向かう。Pigeonpeaが残っているが、間作物は収穫されている。落花生が多い。乾燥地とはいかが生育はよい。土壌は浅いのだろうか。Maize, cowpea, rice, sorghumは疎らに間作。落花生畑が多く、すでに収穫されていた。

最盛期で干して、実を外して、袋詰めに忙しい。出荷する。

落花生は少ないが有る。カイコ繭を干している。モロコシは開花中でどこも熟していない。

9363km, 660m, 921a. Puravaraを通過する。左はシコクビエ畑。川を渡るが、水がない。シコクビエを道路で脱穀している。まだ出穂していないモロコシの畑が多い。長い赤いスカートを翻している女子生徒が多い。昨日の学校を通る。

ユーカリの林を通過、よい匂いがする。

9380km, 640m, 945a. Hinlupurまで17km。

9384km, 950a. 種やさんの故郷に着く。

korneki: 無施肥で15-20クンタール/エーカー。施肥については聞き取れなかった。彼の畑へ行ってから、彼の妻の家に行く。家庭菜園の多層構造。木の高さが違うので、3層で栽培できる。Biomassを最大限にできるが、水があるところの話であろう。図あり。

床につくりつけ、花崗岩製の臼、直径20cmが埋め込まれている。杵は長さ150cm、両端に鉄の輪が付いている。補強と重さをつけるためか。図あり。Dosa, idliを作るときの、水を加えたwet gradingにも使う。イネ、マメ、トウガラシを粉にするときにも使う。

9392km, 104p発。**コドラ**はalka と呼ぶ。飼料用のソルゴーは稀にしかない。

korne: korneのキールを食べると、母乳が良く出るようになると言う。台所の床には牛糞が塗ってある。

食品の写真の説明図あり。Kheer, Anna, Nippatu, Chakulli, Koduballe, Kadabu, Dosai, Roti (onion, chili), Roti, Mudde.

Kheerは神に供える、非日常食品。Annaは日常食で、イネが多いが、コルネも時々食べる。

菓子類はお茶と一緒に食べる。Roti, dosai は月に1-2回作る。

乾燥地、rain shadow雨陰になっていて、雨量が少ない、普通は200-350mm/year。

9396km, 405p. 種やさんの妻の家を辞す。応地先生の調査したAlmara村と、Ashokさんの畑を経て帰る、10p。

モロコシとシコクビエが多い。

9476km、454p。サトウキビ、モロコシ、トウガラシなどもある。スイギュウが多い季節。

トウモロコシは枯れている。これは雨が多い年に作るという。

9434km、525p、右折する。製糖工場を通る。

9436km、710m、530p。左手に製糖工場が見える。シコクビエの畑。右手に鉄道。来た時の幹線道路か。

シコクビエが多い。544p、Gmrget?が近い。

9451km、547p、Bangaloreに60km。

875m、557pより坂になる。途中から道をそれて、Ashokさんの畑と応地先生の調査村を通ったが、暗くてほとんど見えなかった。彼の畑には小さな家があり、おじさんが世話をしていた。犬4、ウシ2、子牛1。ダイズとナスを作っていた。

将来の別荘にするようだ。

96-11-10

530aに起きて、600に外で待っていたが、ムルティは来ない。700過ぎに出て、マジェスティック行きのバスに乗る。

チューベローズ、madigeuu と聞こえるが、籠に満載したおじさんが乗ってきた。女性の髪飾りで、とてもよい匂いがする。

835m、818a、Long distance bus stand発。霧が晴れてきた。良い天気になりそうだ。日曜日だが人出は多くはない。

839a。左手に小さな川、ココヤシのみで、他の畑はない。休耕田と思しきところはある。

西、マイソール方向に向かっていると思うが、定かではない。地図あり。

852a。少しずつ畑が出てきた。モロコシとnigerseedの間作で、すでに収穫が終わっていた。道路は悪くない。

シコクビエの単作畑があるが、まだ収穫していない。小さいバナナのプランテーションがある。

902a、鉄道をわたる。シコクビエ、nigerseed、モロコシの混作。ココヤシは引き続き多い。左手に鉄道が平行している。

モロコシとnigerseedは開花中。シコクビエは登熟中だが、一部では収穫が始まっている。休耕田が多い。

曇ってきた。バスは50km/hrで走っている。水田があり、穂や茎葉は黄色いが、まだ収穫していない。

950a。Maddurで10分休憩、茶を飲む。

958a発。Mandyaまで24km。シコクビエ畑が多い。普通は条播で、約10条に1条の割でモロコシを間作する。

イネも少しあるが、ココヤシが多い。クワ栽培も少しある。サトウキビは定植したばかり、かなり灌漑されているようだ。水気が多い。街路樹は20年生ほどのユーカリ。マメ類が見られない。ココヤシの下にはコーヒーが少し植えられている。

570m、1009a。水田が多く出てくる。Echinochloa sp.がだいぶ入っている。川を渡る。鉄道は右手に平行している。

1012a。Maddhru、バスを乗り換える。

620m、1110a。Nagamangala、またバスを乗り換える。

小さな村の広場で、朝市が開かれている。サトウキビの半加工品が売られている。20個ずつくらいが、ヤシの葉でくるまれている。Dewaliなので、ニワトリを買っている人もいる。布施集めの坊さんらしき人が鐘を鳴らしながら来る。店でポップコーンをもらう。ここにはリキシャがない。Murthyさんの村まであと12kmだという。バスを待つ。

サークルの中心には木が植えてあり、この木陰で休んでいる人が多い。この周辺に鍵屋など雑貨商が多い。

115p、バス発。Murthyさんの出たcallegeを通る。モロコシ、nigerseed、シコクビエの畑。未出穂のシコクビエもあり、晩生品種であろう。イネが多い。サトウキビが開花している。ダイコンを洗っている。水田ではイネとシコクビエを移植栽培している。きれいな水田地帯。イネの中に、少数筆のシコクビエが混じる、土地は2作物に共用されている。水条件によるのであろう。シコクビエは条播と移植とともに行なう。

水田中にはカヤツリグサが多く、Echinochloa sp.は少ない。野生のイネは見られない。ヒマが少しある。木は少なく、開けた農耕地である。シコクビエの中にCerosiaがまれにあるが、これはcawpea畑に多い。

池にはコナギとガマが生育している。野生イネは見られない。ほこりがひどい。
1348pにMurthyさんの家に着く。Popmsideや水田に行って彼の両親などに会う。ココヤシをもらう。
1500pのバスをmissして、1545pのBangalore直行バスに乗る。彼らは時間にlooseだから、(おおらか)、すべてがずれて時間の無駄になる。
1620p。Nigrseedとモロコシを緑のうちに刈って、畑にしている。保険だったということか？
1751p。どこかの小さな町で休憩、どうもパンクしたらしい。Murthyさんに関してはいつもあまりついていないようだが、これで義理は十分済んだのだろう。両親は良さそうな人だった。貧乏でないとはお世辞にもいえないが、どう考えるのかな。多少の差はあれ、教授たちの暮らしは何ら遜色はない。むしろ日本より良いと思う。ようするに、インドでは中間層が少なく、むしろこれは上層に近い。日本の場合は、下層方向に多い。したがって、前者は貧しさが強調されるが、実は中間層について見れば、あまり変わらないように見える。
40分ほどして修理が終わった。20時頃Bangaloreに着き、オートリキシャでYerahanka、200RSに戻った。クラッカーの残骸だらけだ。
途中、Dewaliの灯明が点々と点いていたのはうれしかった。玄関に3ヶ所、家内の灯明もある。図あり。

96-11-15

330a起きる。445aにLさんが迎えに来て、Manturさん宅に行き、空港に向かう。
600a少し前に着き、チェックインする。早朝は肌寒いくらいである。昼間は多少汗ばむくらいに暑くなる。今は良い天気だ。
640aに乗機し、702aに離陸した。右手前方に日の出が見えた。
916a、Delhi空港に着く。SimulaのbookingとBangaloreへの予約をして、リムジンバスに乗る。
1019a発、IPBSへ行く。軽い食事を取ってからバスに乗る。
1212p過ぎに、Delhiを出発する。旅程略図あり。DelhiからHardwarまで、by Rajasthan State Bus。
1322p、工業地帯steelで畑は少ない。それでもずっとサトウキビ畑が続くが、すでに刈り取った水田イネもあった。コムギが播種されているようだ。
1345p、サトウキビが多い。Mangoなども少し出てくる。ムギらしき芽生えの畑がある。
1355p、ナタネが一面に咲いている。水田、刈り取り跡らしきところがある。Meerut近くだから、オオムギかもしれない。
2aほどの畑が耕されている。
1407p、鉄道をわたる。サトウキビ畑が続く。Pigeonpeaはすでに枯れている。デリー近くなので、いくらかの野菜や花が作られている。灌漑は十分なのだろう。しかし、今はほこりっぽい。ヤギなどの家畜は見られない。やはり、ユーカリが街路に植えられている。ココヤシなどはまったくなく、景観は南インドとはまったく異なる。アブラヤシのような物はある。やっとなんか出てきて、水牛が出てきた。
175m、1423p。NNWに向かっている。バスは40-60kmくらいで走行。
1431p。Meerut districtに入り、鉄道をわたる。この辺までは快適に走ったが、次第に悪路となり、おしりが痛い。牛糞団子がたくさんつくってあるが、もしかしたら、これはサトウキビの滓かもしれない。恐らくイネはサトウキビの合間で作られているのだろう。刈りのこしのイネがやっと見られた。
180m、1445p。NNWに向いている。Khatuliの町にいる。サリーの女性は少ないと言うより、ほとんどいない。Rajasthanの人々なのだろうか、大きなスカート of 女性もいる。パンジャビーに薄いショールを被っている。さすがに寒いのだろうか、ショールの端を口にくわえている。コットンを売っているようだ。ベストを着ている男性が多い。今は暑いくらいだが、

朝夕はさすがに寒いのだろう。ムスリムが多い。ジェイプールから、デリーを経て、ハルドワに向かうバスということだ。サトウキビの野生種は路傍に多い。中小規模の製糖工場が多い。1505p-1520p小休憩。多くのバスが往来している。女性用の外トイレを始めて見た、やはりあるのだった。初めて25頭のヒツジと2頭のロバを見た。とても乾燥している。バナナは少しある。サトウキビが多く、変化はない。収穫されて、製糖工場に運ばれている。ヒマが稀にある。1603p、Hardwarまで80km。サトウキビばかりが続く、ひどい悪路だ。収穫して、製糖している。残渣は肥料か燃料にする。団子はこれにことだった。マメ科の落葉樹がある。旅程の地図あり。赤紫と白のダイコンがある。リンゴ、バナナ、オレンジしかない。カルナタカより貧しいようだ。1520p、Rookheelに着く。町に灯がつき始めた。かなりの人が降りた。悪路で予定よりもかなり遅れて着いた。1830pにHardwarに到着。3名が3時間待っていたと言う。迎えに来ていたが、直ぐにタクシーの予約に行った。その後、Rishikeshiで買い物をして、Ranichuriに向かった。寒い。Gangaの中、源流に近づく。Hinduの聖地である。2400p前にゲストハウスに着く。きっと美しいところなのだろうが、何も見えない。電気ストーブがあった。きれいなハウスだ。Ranichuri。700aに起きる。標高は2000mと記してあったが、この時計では1775mで、約200mの誤差である。NEに雪山が連なっている。クマオンヒマラヤである。熱い紅茶だ。お湯も出るようだ。最高のゲストハウスである。水はBiskerのボトルを出してくれた。作物はすでに収穫済みのようだが、種子と情報は得られるだろう。昨夜の話では、インドビエは晩生で、今収穫期のような。キビ、アワ(?), シコクビエ、サマイがあるようで、すでに収穫済み。6月頃に播種して、遅くとも9-10月には収穫する。G.B.Pant University Hill Campus, Ranichauri, U.P.

思索:

低地ではcashcropのサトウキビばかりで、雑穀は作らなくなっている。Hillの人々やtribalの人々が主に栽培を維持しているというように、変化してきているとの事。インドでも日本の過去と同じような経過をたどるのであろうか。今でも傾向はそうだが、人口が増大して、砂漠化が進行する中で、milletsは再評価されるべきで、lost cropsにしてはならないと思う。この信念は正しいが、しかし道は険しいようだ。現実にはまず、資金と人がいるとDR.Sheetaramは言う。阪本先生は「退職」したわけで、私がイニシアティブを日本では取るしかないだろうし、DR.Sheetaramが世界のinitiativeを取ったら良いではないか。アメリカが動かなければというが、待ってはられないので、やはり論文や本を日英で書いてアピールすることが研究者の仕事であろう。日本でも何とかfundを集めよう。穀物としてだけでなく、飼料としても良いのだから、頼んで廻れば集められると思う。やはり、森とむらの会を引き継いで、冒険学習と雑穀研究の方向でINCHを発展させよう。資金は馬事畜産や日本財団でもよい。後者に対するこだわりも置いて、とにかく近未来に対処すべきであろう。**(さて、このような決意の下に日本に帰った。そこで、科学研究費のほかいくつもの財団に助成を申請した。しかし、これまで3-4割の採択で獲得していた科研費ばかりでなく、雑穀を主テーマにして申請するようしたら、まったく採択されなくなった。日本財団は高木先生の推薦状もありながら、相手にもしてくれなかった。日本生命財団も門前払いであった。決意は固いので、個人で自費で実行するしかなかった。したがって、国際的なネットワークを形成しようとの、Dr.Seetharamとの合意文書は、国際学会でも配布したが、反応はなかった。これが国内外の学会、研究者の意識の程度であった。J.Harlanのような少しの優れた研究者を除いて、むしろ研究者こそ無理解の障壁であった。この後も個人として努力をつづけている。現在2006、イギリスにいるが、今後、個人としてどうするか結論を出す時期が迫っていると思う。インドや中国の状況すら、良くない。日本や韓国の市民の関心が幾分高まってきていることは、多少の**

可能性ではある。)

G.B.Pant大学での情報:

ソバ、アマランサスも作っている。シコクビエの収穫量は少ない。Rainfed地域でmilletが作られている。Banyardmillet、ソバやアマランサスも育種している。12-1月は雪が降る。霜も多い。Karifとして雑穀を播種する。キビもある。

茎葉、稈は飼料として使う。シコクビエやインドビエが多い。女性は朝から夕方まで忙しい。シコクビエの栄養価の高い夕食をつくる。Ragi and proso? puliをよく作る。Radu(sweet)。

アワ korin コリン またはコニンkonin? パキスタンにつながる呼称か。

Coixやアズキも研究用に作っている。茎葉を冬の間、家畜の飼料にする。

Pantnagarにはサトウキビやムギしかないので、Hill regionに行ったほうがよい。Ragiもriceもbrastが主要な病気で、問題になっている。コムギがrabiの換金作物になっている。キャベツはよい品種があり、高く売れる。Greenchillには多くの品種がある。

雨季には弱い、よい品種である。灌漑地ではイネ、トウガラシ、野菜用のマメを作る。早生の野菜がよく、カリフラワーやニンジンもよい。市場に遠いことが問題である。4年前にできたcampusなので、すべて準備中で、まだ農家を訪問していない。

cash crops: ジャガイモ、キャベツ、ピーナッツなど、6種が大都市に送られている。野菜は最近になって作られるようになってきた。

forestryの話: silver farは質がよくないので、紙材、リンゴの箱材にする。

soil conservation N固定、fodder、fuel として用いる。Acasiaはオーストラリアが入れた。N固定はするが、問題は雪で折れることである。Wild roseをフェンスに用いている。

banbooではなく、大きなササで、カゴ、マットなどを作る。30年くらいで開花して枯れる。セミが鳴いている。

農家のおじいさんに聞く: コツブキンエノコロがある。

アワは kauni と呼ぶ。 滋養に良い物として作っている。インドビエと混作する。アワの粉で sattu を作る。ピーナッツの様に、穀粒を炒って食べる。

キビは cheena と呼ぶ。 モロコシと間作する。早生で2カ月半で熟す。Dehaskして、bhat にする。穀粒を炒って、粉にする。

インドビエ は jhangora とGarhwalでは呼ぶ。 Armora地方では**Madira** と呼ぶ。Bhatにする。飼料として使う。

ダイズとも間作する。3. 5mになり、穂も大きく、穀粒、飼料に使える。

rabbits を飼っている。毛を年3回刈る。アンゴラのショールやセーターを作る。または肉用の黒ウサギ。インドビエが好きである。雑穀をfeedに使う。

二毛作、cash + main crop。オカボPRR2 はjaponica type、高所でも栽培できる。収量は20クンタール/ヘクタール。

穀粒と飼料に使う。エゴマもある。 Shri Ganga Prasad Bahuguna, Savali village, Tehri dist. 67 ys. NGOでsocial warkerとして働いている。

Dr. Rajendra Prasad, Plant Breeder, Hill Campus, GBPant, Ranichauri, Tehri, Garhwal 249 199 UP

Coixとソバの文献を送ること。Coixはアッサム、アルナチャルで栽培されている。

Coixは雪下で生存しているが、去年の株から出た物にも実が入っていない。

シコクビエ marwa: 105-140日で収穫される。20-25クンタール/haの収量である。農家は0. 5ha以下の所有者が半数以上である。草丈の長さはfodderとして利用する時に関係する。もちろん長いほうが良い。

本年は多雨のため、シコクビエにカビが多く発生した。

amaranthusは200系統ある。ダイズはUSから導入して、oilをとる。シコクビエに間作する。シコクビエは穀物と飼料に使えるが、

この場合、早生でないためである。

Oxalis latifolia が強害雑草になっている。インドビエの畑にも侵入する。20%以上の減収になる。キク科のアレルゲン植物はここにもあり、強害雑草になっている。

エゴマ(Pelira): 密植で、分枝していない。Oil用に畑の境に植える。6月に播いたが、まだ熟していない。

オカボを試しているが、寒いので、多くは念実しなかった。

一般には一毛作しかできない。つまり8ヶ月しか使えない。6月にならないと雨が降らない。

松葉と牛尿を混ぜて有機肥料を作る。雨で養分が流出してしまう。

今は、ソバ、アマランサス、ライスビーンを農家に勧めているという。

一日中、大学内の研究室から、圃場まで見て廻り、ゲストハウスで午後7時過ぎまで議論した。8名ほど雑穀などの関係者がいた。この地域の農業の概観を知るには役に立った。

行政はダイズを推奨しているが、農家は雑穀をやめない。これは家畜の餌にするためである。穀粒は自家消費する。

ダイズとコムギを混ぜて、チャパティを作る。旅程図あり。

96-11-17 96-11-17-0 快晴。615aに起きる。水が出ない。700a頃にミルクティーがくる。800aスギに朝食を取って待つ。10時過ぎても現れない。2名は10時過ぎに来たが、もう一人を迎えに行く。8時半の約束であった。

1992年10月の地震: 4年前にUtterKasiで大地震があった。寝ている時間であったので、石の家が崩れて、1000人くらいが亡くなった。Ranichurilは大丈夫であった。二日間連絡が途絶えた。寒いなか、救援が遅れた。人口が少ないところへは政治は及ばないので、多くの犠牲者を出した。ダム計画についても地震が多いところなので反対がある。

96-11-17-1 農家で種子をもらう。

シコクビエ mandua, koda と呼ぶ。5月に降雨後、散播する。苗床は作らない。マメ類と混播する。アワやアマランサスと混播することもある。1-2回中耕、除草する。9-10月に収穫する。まず穂刈して、後に株刈して飼料にする。

roti; dehask - flour milling - horsegram と混合して炒る - バターをつけて焼く

bari; 少し薄くした dhido のようなもの、porridge にしたもの。

インドビエ jangora と呼ぶ。3月末から4月にかけて播種する。9月末に収穫する。

雨季には弱い、よい品種である。灌漑地ではイネ、トウガラシ、野菜用のマメを作る。早生の野菜がよく、カリフラワーや人は食べない。

ソバ kutu, ogala と呼ぶ。5月に播種して、9-10月に収穫する。葉は食べるが、種子は食べないで、販売して、米麦を買う。アワは常に混播される。

96-11-17-2 下ったところの別の農家: Mr. Surat Singh Negi, Dargi village, distt. Tehri. ここはjoint family。

Manduaシコクビエ: roti にする。Bharvan rothi中にhorsegramを入れる。カードやギーで食べる。

レモン汁に混ぜて飲むとのに良い。特別におねりbariをつくることある。

Jangoraインドビエ: bhat, kheer を作る。

Cheena キビ: 5月に散播して、2回除草する。化学肥料はすべての雑穀に与えず、有機肥料は少し与える。

8月末から9月に収穫。2000mのところでは10月に収穫する。

キビはbhatにはしない。ポップコーン Bukanalにする。ゴマ、くるみ、エゴマbhangiraなどと一緒に炒って食べる。

kouni アワ: 4月にインドビエと混合、散播する。降雨に関わらずに播種する。Bhatでたべ、他の物にはしない。

ダルかヨーグルトdahi=card と一緒に食べる。薬用にする。

- 96-11-17-3 Sri Kuldeep Singh Negi, Dargi, Tehri, UP 1540m
makka トウモロコシ: 炒って食べる。Rotilにもする。一般にpureで作るが、小麦粉と混ぜることもある。
dhan イネ: bhat、まれにkheel。Kichuli=salt rice はイネにマメを混ぜて煮る。
gehun コムギ: チャパティのみにする。粗挽き粉Daliaにミルクを混ぜて作るとおいしい。Puriもつくる。マメを混ぜて、ジャガイモを包んで、いろいろ作る。
chaulai, marsha アマランサス: ポップして、砂糖を混ぜて食べる。Raduもつくる。しかしここでは食べないで、ソバと同じように、交換(換金)作物とする。古くから入っているが食べない。アマランサス1kgに対して、コムギやイネが2.5kgの交換率。肥沃でなくても収量がよい。
- 96-11-17-4 Sri Vijendra Dobhal, Jagdhar village, Tehri, UP
 以上の4箇所は大学の農場を下った村、2箇所の4軒の農家であった。歩いて4時間行程であった。1430pにゲストハウスに戻った。昼食をとって、再び、1530pに出ることになった。小さな段々畑、今はコムギが発芽、または播種されている。今日は風が冷たい。Ranichauriの小townまで車が迎えに来ていた。
- 96-11-17-5 Sri Vijai Singh Tariyal Maund village, Tehri, UP
 アワやキビはあったが、これらが減少してきたのは、インドビエやシコクビエよりも茎葉が固く、飼料用として使いにくいため、後者に置き換わってきた。
 マメ類は播種も収穫も、混ざったままする。料理も混ざったままで行なう。
- 96-11-17-6 Sri Dhan Singh Tariyal, Maund village, Tehri, UP 南向き、1670m
 現在は、雑穀よりもダイズを作って、小麦粉やイネに交換する方向に進んでいる。牛の餌としてインドビエを作るのが主目的である。
 夕食後に、Mr.R.P.Singhの来訪があったが、9時過ぎまで付き合った。咳でのどがガラガラするので、シャワーも無しで早く寝た。民博に紹介した。
- 96-11-18 晴れだが雲が多い。1740m。ゲストハウス。月曜日
 600aすぎに起きて、7aにお茶、8aすぎに朝食。
 農婦の話 Smt Guddi Deir, Maun Village: キビやアワは作ってはいない。
 インドビエはbhatにする。熱湯中に穀粒を入れる。カードで食べるとおいしい。
 シコクビエmaduwa は小麦粉と混ぜてroti(chapati)をつくる。
 180km、1755m、1046a発。やっと車に乗る。スピードメーターはない。
 1055a。Ranichauriを通過、New Universityの横を通り、下る。Tehri Damの見返りに大学を作っているようだ。
- 96-11-18-1 1155発。農夫の名前は種子袋に書いた。Maduwa、Jangora、ゴマ。Pigeonpeaを打穀していた。
インドビエはbhat、chhechhera(bhatにcardを混ぜた物)にする。Tasmai(kheerのこと)。
 4月に播種して、9月に収穫する。穂刈した後、株を刈り、茎葉を飼料にする。脱穀は棒で叩いて行なう。
 シコクビエも同じである。
シコクビエはrotilにする。UPでは散播しかしない。5月に播種して、9-10月に穂刈する。
- 96-11-18-2 Tehri Dam 10年前に建設の準備が始まった。政府は進めたいのだが、地域住民の反対は強い。
 1215pに着いた農家は、古くからの知り合いらしい。IRRI支所のDr.Shinghもいた。地名と農夫名は袋に書いた。
 イネとコムギを作っている。**シコクビエmaduwaはbari** を作り、これは**アネミアanemia貧血症**によくきくという。

基本的には昨日と同じだという。ジャニンジン Cardamine impatiensらしきものが路傍にあった。

- 96-11-18-3 近所の農家。Srimati Kumara Deri Negi, Dikholgaon village, Tehri, UP
アワはbhatにして食べる。Bukkuna、炒った後に、粉にして、砂糖を加え、食べる(こうせんのことか)。
1255m、1244p。ヒマラヤ桜が満開、ランタナも多くなった。右下に川が見えた。ここがTehriだという。
1315p、どうも雑穀は見つからないので、戻ることになった。遠いところでたくさん作っているが、行くことができないと言う。
1350p。道から上の農家に登る。ちょうど何かの祭りをやっていて、太鼓や鐘を鳴らして踊っていた。ミカンがあった。

- 96-11-18-4 1525m。
キビcheena: bhatにして、dal、milk、card と混ぜて食べる。Bukaniは①dehaskしてから直ぐに、②シソ、ゴマ、クルミを混ぜて炒る。

栽培法; 単作で、4月に散播する。30日後に除草を1回する。6月末から7月にかけて収穫する。穂刈してから、飼料用に茎葉を株刈して用いる。化学肥料は与えないで、牛糞のみを与える。脱穀は人が足で踏んでする。容易に取れること、種子がすべるのでこのようにするという。また沢山作っていないからこれで十分であるという。

味は、イネが一番で、jangora、cheenaの順である。

通常の食事:朝食 7-8am; roti(wheat)にdal。茶chaiはこの時には何も加えないで飲む。

昼食10-11am。Bhat(rice、jangora)とdal。Teatime 4-5pm。畑から帰ってきてから茶を飲む。

夕食7-8pm。Rotiにdal。

<祭り>After Depavali: 8日後、8 moon dayに行なう。Puriとhaluuaを作る。

本祭りDepavaliには特別行事食を作る。①fried puri。②haluua 1)粗挽きコムギ粉から作った甘い食べ物。2)熱湯で砂糖とドライフルーツを混ぜる。3)gheeとバターで揚げる。これをlittle girls に供える。③stuffed roti、dalかaluを入れて、揚げるか焼く。④kheer。

- 96-11-18-5 近所の農家のキビ。

1603pに甘味屋に着く。

この大学はインドでは一番に古い農業大学で、U.P.Agricultural Universityであったが、独立後の最初の首相がUPから出たので、彼の名前を取って、大学名がG.B.Pant Universityに変わった。

HillRegionは日射量が少なく、低温によって念実が悪い。

夕食前に、Singhさんら2名が来て、日程を決める。その後、Pathologyさんの家でコーヒーを飲む。支払いをして、夕食後、荷物整理。寒いので、温まってから寝るとする。風邪っぽく腰が痛い。歳だ!

- 96-11-19

咳はでたが、快方に向かう。大丈夫そうだが、まだ負けられないから。

821aに大学HillCampusを出発。キビはもっと山の中にあるという。遠くていけないという。今回は入り口を見ただけのことか。ムラサキカタバミOxalis、ヒヨドリ花Eupatiumが強害雑草となっている。Ranichauriから下る。NewTehriRoadを左折し、Chambarに向かう。Rishkeshまで60km。川沿いの水田、幅200m、980mまで下る。日本の山間地の川程度。Riceの後に、コムギを巻く。ガンジスの支流で灌漑する。

725m、915a-928a。Fakutまで3km。河岸に水田が続く。

Kaudivaki 61km。また川から遠のく。

Narendnagar, Tehriは1947年にインドに加わった。Rajaのpalaceがある。左手にGangaが見える。

1010a、725m、Deradanまで55km。広葉の森林が続く。ユーカーリの植林が出てくる。Gangaの橋を渡る。手を洗う。

275m、1110a。Rishkeshの町に入る。茹でたヒシを売っていた。カラシナの畑が多い。Offseasonにもかかわらず、人では多く、欧米人の行者姿がかなり居る。10人は見た。

1124a。右手に鉄道、直ぐにこれを渡る。稲藁の山が多い。

1128a。川を渡る。サルが多くいる。直径12cmの巨大ナスをよく見る。埃ぽくって、両側は木が茂り、畑は見えない。

左側に鉄道が続く。オレンジ衣の人が多くなった。Gangaをわたる。

1152-1222p。HardowarのGangaの辺に行く。沢山のバスやタクシーが来ている。橋の通行料は10Rs小屋を作って暮らしているのか、修行をしているのか、前者のような気がする。体中に色を塗った役者のような人がいたが、これが河原者の世界なのだろうか。やっと水田らしいところが出てきた。ムギが播かれているようだ。ワジが多い、広大な氾濫原なのだろう。Gangaが平地に出てくるところで、雨季には水があふれるのだろう。しかし、ユーカリ林が続き、畑は見えない。

道端に竹やぶが多い。サトウキビが出てきた。

1300p、driveinnで昼食。道路沿いには整然とユーカリが植えられている。農家は奥まったところにあるのであろう。

地下水が浅いので、(汚染されているので)水は飲まないという。

1333p、やっと森を抜けて、サトウキビとイネ水田に出た。もちろん、今、イネが植わっていることはない。例外的にこれから収穫する水田があった。

サトウキビは収穫中である。サトウキビの汁を煮詰める匂いがする。ムギをイネの後に播いているようだ。

大きなカリフラワーの畑が続くので、大きな町が近いのであろう。質はよい。

子どもたちがサトウキビを運ぶトラックに群がり、稈を引っこ抜いていた。人力車、からす天狗三輪車が行く。

右手に鉄道、左折した。巨大ホテアオイがある。まれにmangoの木がある。

220m、1415p。ムスリムが多くいる。

1533p。池でヒシを採取していた。ウマ、ウシ、スイギュウ、ロバ、すべてが利用されている。Fordの大型トラックもあるし、何もかもが渾然としている。

Kantishima 124km。

1611p、イネとサトウキビが連綿と続く。

1708p、Katina 107km。

1840pに大学に着く。Pantnagarは市町村名ではなく、キャンパス名である。Deradanは寄らずに、南東下した。

Nainitalにもすでに近い。子どもがサトウキビを食べているところなど、40年前の日本の田舎と同じだ。

比較的良い道で、何度もtax10Rsとられた。Gangalには多くの人が、沐浴していた。聖地といっても、観光地的で俗物が大いに混ざっていた。

96-11-20 夜中に汗と咳が出た。これで回復すると良いのだが、腰が痛いし、腕も痛い。熱があるのであろう。気温20度でも少し寒く感じる。昨日出る時は曇っていたが、20日の今朝は晴れている。

700aのお茶で起きる。歳かな。2回目の風邪だ。東UPにはキビが作られている。コムギの収穫後に直ぐに播く。

6月に播くkarif cropである。

96-11-21 晴れ。結局、Dr.xxが文献探しのために一日ここにいたので、3泊予定通りすることになった。隔離された広大なキャンパスでどこにも行けない。20-30km先にしか町はない。風邪はよくなってきたが、諦めて本日は休日とすることにして、私は一日中ボーと日向にいようと思う。3ヶ月で疲れが出てきたのであろう。

Uttarkandのまとめ： 図あり。500mイネ水田。500-2000mはコムギ、オカボ、ダイズ、シコクビエ、インドビエ。

2000m以上はキビ、アワ。

ダイズを3年前に入れてから、一挙に雑穀類が減少した。ダイズ、ソバ、アマランサスは自ら食べないで、売り、そのお金でコムギやイネを買う。インドビエが比較的多く栽培されているのは、茎葉が比較的柔らかく、スイギュウやウシの飼料にできるからである。むしろ、fodderが主目的で、grainは付け足しのようだ。シコクビエも同様で、穂刈りをしてから、他の部分を餌用として株刈りする。アワは混播されているのみで、キビは2000m以上のところで沢山栽培されているという。非常に深い山間で、短距離でも相当の時間を車でも要し、集落は道路から上か下へ、20-30分は歩かねばならない。結局、キビ栽培地の入り口に至ったということで、残念ながらそれ以上の調査はできなかった。急速に雑穀が失われていると見ねばなるまい。RanichauriのHillCampusでは設備も人もないので、germplasmを保存できないという。発芽しなくなってしまう。

しかし、少なくとも、キビがヒマラヤ南麓の高地では今でもある程度栽培されているらしいということはわかった。今滞在している、Pantnagarのdあい学はインドでもっとも古くに創立された農業大学だそうだ。直径10kmはあるキャンパス。あまりに巨大なので、大学運営がうまくいっていないという。1972-73年にはストライキで、大学は一時閉鎖状態にあったそうだ。

タライ平原にはサトウキビ、イネ、今ではコムギとカラシナしかない。数百キロ走って、これまたサトウキビばかりで、面白くない。どこもかも換金作物に置き換わっている。雑穀を研究していた老教授にもあったが、10年前に研究をやめたという。なぜなら、ここでは雑穀を作っていないからである。バングラデシュから来た学生がアワの研究をしていたそうだ。広大な農場のほんの一角に粟とシコクビエが収穫されずに放置されていた。

小金井を 旅の旅に病み なつかしむ テライ平原Pantnagarにて
呼ばれている アッサミーズと 今三日月

午前も午後も日向ぼっこ、少しの散歩に過ごす。5時頃にベッドに入り、7時頃まで過ごす。まだ少し咳が時々出る。

だいぶ良くなってきてはいる。ゲストハウスの爺さんは74歳で、物凄くゆったりしているが、好人物であった。

7a頃に起きる。体温維持は戻ってきたようだが、まだ痰が絡まり咳が出る。でもだいぶ楽になった。やっと今日はAlmoraに向かう。元気だったら昨日中に行きたかった。講義は勘弁してもらった。

210m、830a。出発する。さすがに朝は雫が下りている。右手に鉄道を見て北上する。晴天である。

製紙工場の大きなプラントがある。大レモンを少し売っていた。

901a、鉄道をわたる。

919a。すでに山が見えてきた。ヒシ売りの荷車が通る。

425m、930a-952a。Dr、xx(drive)朝食を取る。Bagを忘れそうになる。代金をまとめて支払おうとして、ちょっと気を緩めすぎたのかもしれない。体調も回復したのでちゃんとしよう。

956a、登り道に入った。490m、KumaonHimalayaに向かう。ミゼットはここでも活躍している。Suzukiもたまに見る。

555m、1002a。Almoraまで83km。良い道である。厚い広葉林を縫う。右手の谷間には水田がある。広い谷、バナナ、mangoが生えている。

1005m、1022a。ラジエーターがすごくオーバーヒートしている。一時停止して水を入れる。まだ、広葉林でバナナが点在する。日本の関東山地に景観が似ているが、まだ若い男女がいる点は違う。大レモンを沢山売っている。

1250m、1032a。Almoraまで68km。天水田が続く。

1460m、1041a、Almoraまで63km。尾根下に村落が見える。マツが出始める。草地が多くなる。

1500m、1044a。眼下にコムギとカラシナ畑が広がる。

1540m、1054a。針葉樹林帯に入った。マツが多い。また、広葉林が出てきた。小さい町を通る。バスの往来が多い。レモンの木がある。

1335m、1115a。ヒマラヤ桜が咲いている。左手に寺あり、休憩する。刈りのこしの水田が少しあった。

885m、1151a。Garanpani町を通過する。谷の水は清浄である。小麦の芽生えた畑がある。

1216p。Almoraまで18km。

1180m、1230p。Himalayaが見えた。松の純林で下草はない。ウシはやはり小型で、コブウシではない。

道を通り過ぎて、7km戻り、1560m、1300p過ぎにICARの研究所に着いた。不十分ではあるが、ゲストハウスの窓からヒマラヤが見えるのはすばらしい。すでにpinkからblueに色を変えつつある。

1734p、洗濯をする。湯沸し大コイルがあったので。

当然のことだが、真北に山々が見える。中国とネパールの国境は数10km先、道路が良いのは中印争による軍用道路だからである。空軍もいるし、軍用トラックとはよくすれ違った。クマオンヒマラヤに来たが、何かのストライキ中でにぎやかだ。

ダージリンの時のようではないので、大丈夫であろう。辺縁の地は桃源郷ではないと思う。現実には厳しい。

さて、18p過ぎで洗濯は終わり。風邪で汗をかいていたので、ある程度汚れていた。3泊中に乾燥すれば一安心だ。

<論文・原稿書きの件> 健康が多少回復すると、(まだ痰と咳は出るが熱はない)再び夢風船が膨らみ始める。

BrachiariaやSetariaglaucaの論文はまずEconomicBotanyに投稿して見る。だめなら、Tropicsにする。この2種とDigitaria

cruciataの染色体は別にまとめる。帰国後、インドの農業の本は雑穀の意味を前向きに考えるように書いてみたいが、

必ずしもこだわりすぎないほうが良いであろう。現状分析をちゃんとして、将来への評価を行なうべきであろう。

人口増加と、砂漠化、土壌流出、乾燥あたりが農業的に重要であろうが、環境文化からすれば、栽培植物と地域の食文化の多様性がポイントになる。

<3人の話> Hillで主要な農業をやるのは女性だから、女性が作物を決める。政府は雑穀をdiscouledgeしている。人口の都市集中、スラム化が進んでいる。女性が物欲よりも、農作業に喜びや誇りをもてるようにする。

Dr.xxの後輩の生理学者が来る。インド知識人の本音が少しずつ聞けてよい。考えているが、実証できない辛さがあるの

であろう。早朝に一匹の蚊が飛来したが、刺されはしなかった。まだ、多少の咳と鼻は出るが、体調はほぼ回復した。

trademark; 図あり。夢風船は 膨らんだり 萎んだり

630aに起床。700aにお茶。800aに朝食。晴れ。

研究所の庭で待つ。Mr.Mantorには熱意がない。研究目的がわかっていない。インドに来るのも今回限りだな。

シタラムさんがもう動かない以上、次の人々の能力は弱く、雑穀研究の熱意を疑う。少し文句を言った。一日中申し訳程度に村を廻っても仕事ではない。

1022a。やっと車が動く。Diselcarなので寒いと動かない。

1385m、1040a。小型ウシ、1m強しかない。コムギはよく出ている。KashiRiverの辺に環境研究所がある。

注水のために、一時停車。

96-11-23-0 1090m、1057a。実験農場に着く。雑草アゲラタムが多いところだ。Nepalに近い。日華区系。Mazusuほか知った植物が多い。

Hawalbagh, Almora virekanada Parvatiya Krishi Anusandhan Shala (ICAR), Experimental Field, Farm

malti crop institute としてここは作られている。

rabi: wheat, vegetable、bean(Pulses)

karif: spring rice, maize、millets、pulses、Coixも含む。

90%は雨に依存して、農業が営まれている。Rice=only upland rice。稀に水田・天水田もある。foddarcropは重要である。Medicinalcropsは2-3年前から研究を始めた。Onionの新品種を作った。horsegramも作っていて、冬に食べる。恐らく胆石に効くといっているのであろう。クマオン地方はヒンディーでも、方言なので、ヒンディーが通じないようだ。北インド農村は花(婿)入り婚である。

- 96-11-23-1 研究所の農場近くで聞き取り調査をする。M.C.Pathak,Hawlbagh村、Almora dist. キビは作っていない。
アワkouni: medicinalにも用いる。Bhatにする。Rice水田の周囲に6月にまく。畦に播くので、区別して収穫できる。穂刈をまずする。緑の部分は飼料にする。ほかは堆肥にする。有機肥料のみを与える。これはマツの葉で作る。
インドビエmadira: 5月に播き、9月末から10月に収穫する。Bhatにする。
シコクビエmanduwa: rotiを作る。コムギこと混ぜることもある。冬に食べると体が温まるという。5-6月に播き、10月に収穫する。
- 96-11-23-2 Chandansingh Bisht. Matela village, poi-kosi, Almora dist.
大きなむかごをつけるDeoscoreasp.葉は22x22cm。Sabjにするという。イシナシもあった。
1300pにゲストハウスに戻る。
雨季のイネ科: Setariakazugula, Khusgrass, Bromus, grassland manaw,
冬のイネ科: P.Rye, Tall Fescue, Cocksfoot, が用いられている。
博物館で。ソバも少なくないという。Fagopyrum esculentamもF.Tartaricumもともにある。
- 96-11-23-3 1355m、1430pに再出発。Navin Chand Bahuguna, Pateshal village, Almora.
kouni: 食べないで、ウシの餌にしている。時々、bhatにする人はいる。
Manduaシコクビエ: roti にする。おねりは作らない。
springrice → コムギ → manduaで 一年に3輪作する。この家にはアワ、インドビエ、イネを束ねてつるしてあったと思われるものがあつた(アワ2穂、ヒエ1、イネ2穂)
- 96-11-23-4 1900(1880)m、1619p。Prem Singh、Artola village, Almora
キビ Chin: ポップコーン、bhat,rotiにする。
キビは6月に散播して、9-10月に株刈りで収穫する。人の足で脱穀する。Polishing, dehaskingは臼でつく。
堆肥だけを与える。
シバ神寺院の茶屋の客の話。Chinaはbhat, roti, bhunana(炒って食べる)にする。ここでは入手できないという。
Almoraから35kmくらいにあつた寺院。1500年代に造られた。アユタヤに似た感じがした。仏教も混ざっているといっていたが、1500年前ならそうであろうが、1500ADなら違うのではないのか。
茶店の隣の雑貨屋で、アサツキを沢山見た。行程の地図あり。
帰途、さらにかねが2500あるという寺に寄つた。確かに鈴なりであつた。
1900p頃、ゲストハウスに着いた。小型車に7人はきつい。キビがもっと標高の高いところに在るというのなら、朝出ればいけると思うのだが。現物が収穫された後の調査は結構きつい。
キビとアワは見たところ、Nepal的で変異は低い。キビのP.m. ruderaleが混ざっているとは思えない。
Simlaに期待しよう。
この辺が玄関口なのであろう。南下、[南下+東進]ルート。キビとアワについて。
2000p近くで夕食前、もうひどく眠くなつてきた。寒い。道理でヒーターが切れて、風だけになっていた。

96-11-24

晴れ、室温で11.9度c。1560m、648a。

朝ヒーターをつけたら焼け跳んだ。昨夜他のヒーターが機能しなかったのも同じ理由であろう。20Aが強すぎるのではないのか。山々は今日も美しい。

Dr.Sburamanyamの話: hillにはgreen revolutionが及ばない。土地は狭い、水はない。肥料も農薬も投入しない。大土地所有はあってもそうはしない。ウシは小型化していった。畑が狭いから動けない。大型スイギュウなどは運動させられない。座っているばかりになる。

ラギやオカボを推奨しても、たとえ収量がよくても、一年でやめる。味が良くないという。結局、コムギを除いて、改良品種は容易に普及、定着せずに、在来品種が維持され続けているという。

944a。ガソリンスタンドによって、出発する。小さくはない町なので、湧き出るように人がいる。狭い山間地の道路は多数のスズキとジープが走っていて、片側は埋まっている。ほどほどに豊かなところなのであろう。チベット、ネパール人的な顔が少なく957a、休憩。Koshi 6km、1008m。竹あり。コムギ畑が多い。

1145m、1024a。ヒマラヤサクラが咲いている。左手に川、昨日の環境研究所を通る。川をさかのぼる。

1029a。ここから別ルートに入る。ウマも小型で、コブウシもいたがやはり小さい。

1115m、1037a、Kausani 36km。黄色のxx家？は多いが、赤はまったくない。

北インドと南インドを比較して、北では多くミルク、lasiを飲み、チーズをsabjilに入れる。

小型バスが通る。

1250m、1056a、Kausani 26km。コムギ畑が多い。

96-11-24-1 1300m、1111a。Kausaniまで 18km。Bishan Dutt、Babri village, Almora
インドビエjangora はbhat。5月に播き、9月に収穫する。

mandua: rotilにする。

12月15日頃に雪が降る。Chickpeaの耐霜性品種がある。

Kausaniまで17km。老人が多い。川の両岸は良いコムギ畑、1筆は小さいが広がっている。Karifはイネであろう。

小さな町を通過する。松葉堆肥が多く積んである。

96-11-24-2 1385m、1154a。イネは6月に播く。今はコムギが生育中で、10月末に播いたのであろう。これほど良い畑があるのなら、雑穀はないのだろうと思う。

1214p、Kausani町に着く。ここから見える山はChaukhamba、7138m、一番高い山はNandaDavi 7817m。

ヒマラヤの眺望が良いゲストハウスで茶を飲む。

96-11-24-3 1720m。Girishさん、Kausani village, Almora。アワはbhatにする。イネ水田の周辺畦にアワを播き、出穂前に飼料として刈り取る。キビ・アワは緑のまま餌にする。今はダイズを作って売り、コムギを買う。雑穀は順次減少している。

Mr.Manturは雑穀はtraibalareaで主に使っている、貧しい人々のものだという。彼は雑穀を認識していない。インドも魅力がなくなるな。Dr.Seetharamは責任者だからわかっているが、若い人々の認識が低すぎる。シタラム時代もあと7年としたら、インドは期待できない。Lostcropsという記録が残ることになる。といってもまだ30年は遺存的には高地に残るだろうから、人口増加や砂漠化に対応することになったら、再注目されるのだろう。あるいはそれまでもたないか。Lostcropsには頼らず、コムギやイネの新品種で対応するのだろう。そうすると農民の自立性は完全に失われてしまう。面白みに欠けるだろう。やるだけやって、農水省に渡すことかな。せつかくだからできるだけの仕事はするが、と結論すると、個人的にはmilletを研究するが学生にはやらせないことかな。

1358pに下る。ICARにサポートされている村があるというが、行くのをやめた。蜂蜜作りとかも進めて、経済的に豊かになったという。そうであればもちろん、milletsは見られないであろう。明日も休日ということであるので、もう深追いするのは止めて、帰ることに賛成した。

1422p、Almoraまで46km。

96-11-24-4 1285m、1453p。戻りの道なので、同じルートの別の場所である。Bahadur Singh, Gwaiakot Village, Almora

96-11-24-5 1155m、1540p。L.M.Pant, Mahat village, Almora. インドビエmadira 珍しく赤い葉があった。

1630pゲストハウスに着く。

<まとめ> 本日訪れたKausaniは谷が広く、深くかつ浅いので、灌漑された水稲+コムギ作が中心となっている。インドビエ、アワ、シコクビエは河岸段丘で栽培されているに過ぎない。見るからによく整備されていて、松葉堆肥を大量に与えていた。周辺の山は主に松林なので、これが主要な素材となる。針葉といっても長くて、ごく柔らかい。これを集めた物が各所に山積みしてある。今は冬支度を順次やっているのであろう。いわれるように働いているのは女ばかりで、男はトランプや改造ビリヤードのような遊びに興じている。たまに畑を耕しているのが男であるに過ぎない。日頃、ほとんど働いていないのであろうか？。遊んで暮らしているのか？明日、Delhiに戻ることに同意した。Muntorさんに期待しても無駄であることはよくわかった。運転手だけいれば仕事は可能だ。この状態で深追いしても疲れるので、もう諦めることにした。

Biharでも漸減しているという。今年、Orissalは雨が少なかった。他の東面したAP,TNは多雨すぎた。Karnatakaさえ1.5倍は平年よりも多い降雨であった。結果として、作物に病気は出たが、生産量は概して良好であった。例外が、Orissa,恐らくBiharも含んでいると思う。多くの農家が収穫を諦めて、カルカッタへ出稼ぎに行った。1日10Rs程度の日雇い農の手間賃では引き合わないから、都市に流入してスラム街を作る。これとてろくな暮らしとは思えないが、今日では都市のほうが人口を養う力があるのであろう。貧困だ、飢えだと言っても、冷めたチャapatiは捨てられるものね。皿に汚く残して、大ゲップするのが、一般の習慣とすると、ごみをあさって生きていくことはできる。これを10Rs日当とどちらが誇り高いか、比較はできない。楽なほうを選ぶのなら、これとてどちらとも言いがたいが、都市のほうがよい日当であろう。

さて、私としては自己満足可能な仕事はできると思う。しかし、geneticresourcesをどうするかという理論に伴うべき実践的な責任の問題となろう。15年がんばるのはできるが、次を託さねばならない。そうされる人はまた重い責任を背負うことになる。そうさせてよいのかどうか、最後は本人が決めることであるが、つらいところである。以下2ページほど省略。

小型ウシ 低いこぶあり

96-11-25

晴れ。620aに起床。直ぐに準備した。714aにAlmoraを出発した。研究所の庭には、Rorippadubia, Cardaminesp.恐らく、C.flexuosaがあった。Matagodumへ64km。

810a停車してお茶にする。817a発、890m。900aにNainitalを通過する。右手9kmという。まだマツが多い。1620m。

1135m、932a。広葉樹林帯に入り、マツは稀になる。バスが多く、すれ違う車は少ない。

500m、1002a。町に下り、車が多くなる。ミゼットも多くいる。左手に鉄道、丘陵から出るところにある。

1010a、来た時と同じ店で朝食を取る。Pantnagarは近い。今日は中央政府指定の休日だという。

1050a発。今日は事故車をよく見る。気をつけてほしい。

340m、1108a。サトウキビとイネの地帯に戻った。

1140aにPantnagarの大学について、Dr.Sを降ろして、Delhiに向かう。広大な数10haの菜の花・カラシナ畑。大学構内から一般道に出たようだ。左手の川にColocasia、クワズイモもよくある。Brassicaはよく咲いている。

1235p、修理屋による。Bilaspur, Rampur dist.

デリーに180kmで鉄道をわたる。一面の菜の花畑が続く。

1414p、デリーに150km。カリフラワー畑、都市近郊的になる。特別な市やウシの市もたっていた。この道もサトウキビが多い。コムギの生育は良好である。

1505p発。Dalを食べる。沢山のヒシが売られている。

1509p、デリーに125km。サトウキビばかり。トラクター、牛車、馬車が続々と向かってきて後方に行く。大きな祭りmelaがあるようだ。万余になるのではないか。すごい埃だ。

1551p、Gangaを渡る。この辺が祭りの中心地のようだ。トラクター等は帰るところであった訳だ。10万を越えていたかもしれない。大渋滞である。両側に車が止まっている。ラタン様の椅子が沢山売られている。今日ばかりはスイギュウも泡を吹くほどに人を乗せて歩かされている。また人々を乗せた車が、延々と続く。Gangaで沐浴する特別の日であったのだろう。遠くからも来ている、大変なことに巻き込まれているようだ。デリー方向に延々と各車が続き。大変な渋滞である。何か事故でもあったらしい。動かないので、Uターンする。しかし、またUターンして、判断を迷っているようだ。左折して、堤防上を走る。幹線道路に戻る、作戦はよかったのか、ひどい無駄だったのかはわからない。猛烈なrushで、埃だ。18pに着く予定が、すでに1642pだ。陽は大きく傾いている。同じように流れているので、判断は誤りで、よい状況ではなかったようだ。まだ、水牛車がいる。一体どこから、遠くまで出てきたことか。インドの人口の多さは恐怖である。ほとんどデリー近くから来ているのではないのか。自己中心の徹底さ、平然としている、ほんとに恐ろしいことに巻き込まれたものだ。

1712p、陽は沈む直前である。運転手はだいぶ疲れてきたようだ。あと80kmもないと思う。こんな時に物売りが多い。数10頭のブタが走っている。冗談が過ぎた、うんざりだ。

結局、Manturさんの的確な判断で、taxiを換えた。胃が痛いとのことで注射をしたらしい。それで眠気が襲ってきて、運転が困難な状態になってきた。もうデリーまで20kmほどであったようだ。

JanpathHotelに行ったが、満室だったので、RanjitHotelに行った。ようするに80年代の思い出に浸ろうとしたのだが、だめであった。「インドはもうインド」なんてくだらない句が浮かんだ。大気汚染がひどく、目は痛いし、気持ち悪くなった。朝起きて、UzbekEmbassyに行く。11a頃まで待って、書類は出したが、10日後に電話してから来いとこの事であった。これは12月4日だからBangaloreに帰る日である。2日にコンタクトしてだめなら、変更せねばなるまい。何故こんなことが直ぐにできないのか？先方がよほどヒマであるということであろう。

東京銀行は移転したようだ。そこでArahabadBankに入ったら、余計な仕事を頼まれた。日本に手紙を書く羽目になった。Oxford書店に行って、沢山本を買って、Bangaloreに送ってもらった。以上をしてからHansPlazaを予約した。

Ranjitに戻って、サンドイッチを食べた。Visaさえ取れば、Delhiには用はない。この7年で大きく変わったようだ。

Ranjitは陸橋を渡らねばならないので、空いているのだろう。古いタイプだが、汚いというほどではない。プールまである。アフリカやロシアの人がいた。夕食をとって9時に寝る。

4aに起きる。5a前に空港に向かう。720aには小型機に乗る。

900aにShimlaに着いた。山頂を平らにした小さな空港であった。町まで1時間かかる。場所がわからないので、農場のところまで行った。2350m。観光用のウマがたくさんいた。パンクした車輪を取り替えて、下り、再びShimlaの町に入り、研究所に着く。ゲストハウスの1室が確保された。

空港では、ticketを変更した。12月4日を6日に、これでUzbekのvisaが取れなければ、取りやめて北京に直行することにする。親切そうだが、規則が単純ではないのであろう。時間とホテル代の無駄である。欧米や日本以外はほとんどそうだ。

そんなところに行きたがっている自分が馬鹿なのだから、もう少し我慢して、努力するしかないのだろう。

96-11-26

96-11-27

- さて、ここは1970m、ヒマラヤシーダーが多く、マツは少ない。山腹に多くのビルが建っている。British時代の物が多いのであろう。学生は制服、スカート、ジャケットで、英国風モダンである。昼間はそんなに寒くはない。食堂で待つ。keyno.9がない。石炭ストーブが入っていて、皆、チャパティを食べている。ジャガイモを売って、コムギを買っているのだろうか。ウシがいれば雑穀はあると思われる。ウマはたくさんいるので、多少は期待できよう。丁度会合があるらしく、シングルは取れなかった。昼食後、Directorに会って、誰か紹介してもらえるかどうかだ。ちょっと困難そうだ。タクシーを雇って、適当に種子集めするしかないだろう。Dr.Sukumaranがアレンジしてくれた。妻玲子さん。2人息子がおり、北大の酒井先生のところで勉強したという。NBPGRの支所ではDr.Joshiにあった。ソバに関係しているようだ。彼の情報により、1日60km下って雑穀を探すことになった。現場にないのは厳しいが、やってみることだ。まるで香港のように建物が積みあがっている。しかし、海に面していなくて、谷底ということだ。遠くに多少白い山が見える程度。高冷地で涼しいのだろうが、リゾートといってもとりわけ何かがあるわけではない。ダージリンのほうがお茶で豊かであるから、より観光地化されている。坂が多くて、狭い道では交通困難で、やはりひどい排気ガスがよどんでいる。汚染がひどいとしには居たくないものだ。デリーなどは気持ちが悪くなるほどだ。環境問題は本当に厳しい。努力はするとしても、人の欲望はとどめようがない。楽観的にはなれないよね。
- 96-11-28 晴れ。7a前に起きる。お茶を飲む。
839a発。さすがにサリーはまったくない。ヒマラヤスギ、カシがかなり大きい。
858a。2170m。Narkandaまで57km。ヒマラヤスギの純林、下草はある。12月下旬には雪が降る。
RorippaやCardamineがある。
2390m、910a。6-9月は雨季。12-3月は寒い。キャベツ、カリフラワー、ジャガイモ。
2430m、938a。朝食、雪山が見えた。Route22、昨日茶を飲んだところを過ぎる。
- 96-11-28-1 2340m、1008a。標示は2400mなのでよい値である。山々は茶色の草地が多い。
Gally village。ジャガイモしか作っていない。雑穀の呼称：**キビCharai、アマランサスbattu、コドラkatai、アワkauni、エゴマbhang jiri** (rotiの中に入れる)。
- 96-11-28-2 2250m、Bekalbi village。Dillavam さん。
アマランサスbattu はあった。5-6月に播種して、10月に収穫する。Sattuまたはlafī; 粉にして、砂糖か塩を加えて、milkで煮る。
トウモロコシmakka: rotiにする。
1037p発。Rampurまで100km余。Theog(2360m)の町らしい。種屋に行く。
1125a、道が違って戻る。
タネやが手配してくれて、少し遠いところのキビが入手できるかもしれない。ありそうではない。あるいは少しはあるのかもしれないが、ないということになっているのかもしれない。最近急激に作らなくなっているのであろう。
- 96-11-28-3 Jais village、Sohanlal Bhalwa Ji Shivranagiさん
- 96-11-28-4 Bhijhedi Khanda village、Simla。Indersinghさん。1890m、1244p。
キビは見つけられなかった。アワは少し、1ヶ所のみ。ここで戻る。
1315p、Simlaまで30km。
1351p。朝食を取ったところに戻る。昼食をとって、セーターを買った。
1510pにゲストハウスに戻った。

<考察> いつも思うことのようにだが、平穏な山村で静かに、世の動きと関わりなく、暮らすのが、より人間的だろうか？
 そうだとしたら、世界の地理や歴史を知ろうなどというのは、ちょっと生意気なことになろう。
 これがすべてとして暮らすのと、やはりほかも見てみようという出かけるのと、どちらがラッキーかわからない。しかし、
 探検心があるからには、やはり出てみようということになるのであろう。
 さて、1/3が過ぎようとしている(10年後の2006年の今も同じことを書いている)。6ヶ月は原稿書きに集中することかな。
 遅いようでも、時は過ぎていくからね。今、前進させておかないと、また忙しさに追われてしまう。
 屋根の端に 野猿一匹 鏡中 夕陽が沈むところである。冷えてきた。
 1714p。しょうがないので、部屋の戻ってヒーターをつけたが動かない。そこでベッドにもぐりこんだ。夕食は例のごとく、
 8時過ぎに6枚のチャパティを食べた。そして、9時前には寝た。ほかにすることもなし、話の種も尽きてきた。
 明日は見学のようだ。ジャガイモ研究所なので、余取り合ってくれない。Manturさんも萎縮していて、言葉が通じないので、
 タクシーで外に出る元気がない。といってせつかく遠いところまできているのに、残念だ。時期を失った調査はつらいものがある。
 現物があれば言葉が通じなくても集められるからね。
 一晩中、ヒーターをつけていたので、暑いし、のどが渇いて、ついに水がなくなった。もう1本買っておくのだった。
 シングルルームをくれないので、お互い我慢しないと、仕方がないよね。
 あと1週間は長い。Visaの件しかやることがない。Aiticketのreconfirmはやっておこう。動物園にでも行って時間をつぶすか。
 Kannadaを覚える。原稿を書く。ショールを買いにいく。インド農業の本を探して読む。
 630aに起こされる。お茶をのんでから、朝陽をみにでよう。後2日我慢しよう。体を洗いたいが、山小屋に泊まっていると
 思って、贅沢は言うまい。これで調査旅行には堪能したので、後は静かに著作に励みましょう(当人も結構弱気ではないか)。
 旅行地図あり。
 ここのゲストハウスは親切ではない。少し省略。
 1028a, farmに行くバスに乗る。Kufri。
 1118a。ジャガイモ農場に着く。2465m。ジャガイモの育種をしている。Virus free potato production、KUFRI名の
 ジャガイモ品種を出している。Long day condition用品種。4月に定植する。6-7月に開花する。
 この条件だと、開花が見られるので、ここで育種をしている。短日のStationでは育種できないので、ここに持ってきて行なう。
 virusが主要な病気なので、これに感染していない物を作る。これを農家に配布する。3000個体をscreeningする。
 virus6種についてcheckして、enzymeを調べる。品種を確立してから、2年間は増殖させて、その後農家に配布する。
 ジャガイモはhill areaで作られている。灌漑しない畑で作る。25qt/haの収量がある。
 short durationのジャガイモを作りたい。Red skin varietyをアッサムでは作っている。Redは耐病性が強い。
 平地ではseed productionが困難であるので、KUFURIで交配する。日長性との関係が強い。ここで交配した後、
 各stationsでscreeningする。
 輸送に時間がかかる。インドでは1%しか消費をしない。
 1230pにレストランに入る。2番目に解説してくれた人は、朝私をシッキム人かといった人物であるが、遺伝研で岡先生の
 所に1年間いたという。それなりに日本に来ているのだ。合計で3ヶ所、10haの圃場があるようだ。
 雪山の向こうはチベット、ダライラマの臨時政府も近い。チベットを目前にしたところにおいて、彼はがんばっているのだが、
 最近急に焦点が当てられている。どうなることであろう。
 すべて一旦、お金に置き換えてから物の価値に序列をつけ、再交換する。このシステムに農作物も大きく取り込まれている。

- 自家消費用は換金されない部分であるが、これが金では評価されない。されない内容価値を経済外価値として持っているといえる。この重要性を正當に評価すべきである。
- 1357p、14p発のバスが来て、研究所本部に戻る。1500p着。のどかな一日を過ごす。
- 1700頃、Dr.Sukumaran宅に行く。スナックをいただく。
- 1818pに戻る。明日は一日調査に使いたい。
- 96-11-30 630aに起され、700aに追い出されて、外に出て茶を待つ。茶を飲んでから、800a過ぎまで、散歩してから部屋に戻る。それほど寒くはないが、降霜が見られる。急速に冬へと向かっているのであろう。木性ダリアのピンク色がまぶしい。ある日突然、枯れるのであろう。行程地図あり。
- 830aにtaxiが来て、Solanに向かう。左にミニトレイン鉄道、Kolkaまで行き乗り換える。途中でオムレツを食べる。
- 915a。直ぐにガソリンスタンドに入り、その後早速パンクである。
- 936a発、一人乗ってきた。
- 1775m、946a。カシ林も混ざる。ヒマラヤスギが多い。22号線はよい道である。Solanへと下る。斜面は枯れ草地になっている。
- 1705m、957a。果樹園があったが、リンゴであろうか？
- 1485m、1012a。Solanへ17km。
- 96-11-30-1 1395m、1105a発。Laxmi Dutta Sharmaさん、Khatog村。老人しか雑穀は作らない。Maldait Deewanさん、Khatog村。若い人は好まなくなっている。アワはbhatにしている。ラギは作られていない。コムギの畑が多い。
- 1112a、Solanへ2km。またガソリンを入れる。
- 1119a、Solanに入る。リキシャが多い。左折する。
- 96-11-3-2 1385m、11147a。Sri Balmukurd、Majjigao village。トウモロコシを入れたので、アワは作らなくなった。
- 1335m、1158a。Nauniへ3km。
- 96-11-3-3 1215m、1249p。Mangal Singh、Samrod Village。
- 1320p、Solanに戻ってガソリンを入れる。
- 1400m、1336p。昼食を取る。チャパティ、ダル、マシュルームカレー、チーズカレー。
- 1403p発、Chailに向かう。
- 1408p、右折して小道に入る。小麦とカラシナの畑。
- 96-11-30-4 1135m、1437p。Baldevsingh Takurさん、Sadnypool village。
- 1250m、1453p。2ヶ所で聞いたが、雑穀の栽培はない。
- 1508p。ひどいマツ枯れ病が出ている。
- 96-11-30-5 1640m、1518p。Gouridatta Sharmaさん、Dono village
- アワではchawal=bhat を作る。キビはChini, cheena。
- 1531p発。マツ、ヒマラヤスギ、少しカシが混ざっている。
- 1550p、Chailに至る。2000m。お茶を飲む。PalaceHotelは以前は、Rajaのものであったという。
- 1609p発。1702p。ヤク3頭、白1、黒2。
- 1712p、Kufriに着く。ヤク白2、黒1。

1800p頃ゲストハウスに戻る。

種子サンプル、荷物の整理をする。収集品が少ないので、直ぐに片付いた。Simlaではキビを見ることができなかった。同時にEleusine coracanaも見なかった。北西部インドにはシコクビエはないのである。ここは中央アジアへの入り口であるのに、ない。かつ中央アジアにもシコクビエはない。すなわちインドから北上したのは、(実際は南下したのか)モロコシのみである。トウジンビエもパキスタンどまりである。乾燥に強いもろこしのみが伝播して、かつ残り、中国まで広がったということか。ただし、南回りでは、モロコシとシコクビエは日本にまで至っている。恐らくコーリヤンは北周りで、日本のモロコシは南まわりであろう。アワがもっとも南下し、キビは北インドどまりということになる。現代から見た話で、過去がそうとは言えないが、ほぼ納得がいく。

星がきれいであるが、しかし町が明るくてよく見えない。教会と思われる建物はライトアップされており、白く美しく浮かんでいる。さすがにちょっとした都会だ。夏の首都、ヒマチャルの州都、美しい町田と思うが、やはり人が多い。湧き出てくるからね。サリーは今朝、オムレツを作ってくれた、店屋のお上さんだけだ。まったくくらいいいない。若い娘はジーンズもいる。帽子を被っている人もいるが、観光用であろうか。図あり。かなり派手である。老人は黒のものを被っていた。大概はタクシーやウマ曳きの人が被っていた。

96-12-1

晴れ。600a前に起きる。水が出ないので、トイレを流せず、番人の部屋に水をもらいに行く。もう一棟の方は出るのに、こちらは昨日から出ない。さて、お茶を飲んで支払いをして、Delhilに戻るため、700aのタクシーでSimla空港に向かった。744aに空港に着く。カメラを預けさせられた。

840aに離陸して、1000a過ぎにDelhilに着いた。前払いタクシーで114Rsですんだ。いんちきタクシーで700Rsほど取られたものね。

1200a頃、HansPlazaについて、荷物整理をして、シャワーを浴びる。期待したバスタブはなかったが、さっぱりした。

1330pに21Fのレストランに行く。今日は外に出ないつもりだ。日曜だから、店は皆閉まっている。

1530p過ぎに自宅に電話をする。皆元気で安心した。

96-12-2

快晴、ただし、スモッグがひどい。700a頃起きて、ポーとし、900aに洗濯物を出してから、1000aころ、ウズベク大使館に行くとしよう。814aに洗濯物を取りに来てくれた。900a過ぎに朝食を取って、1000a過ぎてから、UzbekEmbassyへ行った。だれも客はおらず、交渉したが返信が来ていないので、visaは出せないという。結局、5日にもう一度行ってだめなら、giveupということになる。そこで、UAについてDelhi → Baijing 直行はないか聞いたが、「Delhi - Hongkong - Beijing」 - Tkyo となる。合計で3200ドルという。かなり高い。このことについては、Uzbekのvisaが決まってから、旅行代理店にBangaloreで頼むことにしよう。あわてないほうが良さそうだ。本と紅茶を買って、1230pにホテルに戻った。昼食をとらずに、2000pに夕食をとることにした。18-19pにNewsBBCを見た。丁度、TajikからUzbekの麻薬ルートの摘発のドキュメンタリーをやっていた。Oshilに至るルートは行きたいところであるが、大変なところのようだ。Haryanaで列車が爆破された。これも直ぐ近くの話で、騒然としていて、矢張りそまを呼ばなくてよかった。南インドは安定しているとは言いが、何やかや毎日起こっているし。

96-12-3

630aに起きる。一日中読書することにして、動物園はやめよう。明日reconfirmなどして、明後日にもう一度Uzbek大使館に行くとする。1km先が見えないほどのスモッグだ。外に出る気にならない。のどが痛いので、早くBangaloreに戻りたい。しかしサイクロンが上陸するうようで、6日のfrightは大丈夫かな。2000pに夕食をとり、2200p頃に寝る。

少しテレビ映画を見た。

96-12-4

700a少し前に起きる。830aに朝食を取り、そのままUAで北京-東京をリコンファームする。その後、ThomusCookで換金して、

ジャンパスホテルへ行って、テーブルクロスでも買おうと思ったが、カシミリーの彼の店はまだ開いていなかった。昨日と同じ紅茶をもう2箱買った。HansPlazaに戻り、引き続き読書にふける。18pにBBCNewsを見て、2000pに夕食に行く。2130pには寝た。

96-12-5

700aに起きる。毎日明け暮れるが、明日はBangaloreに戻る。これだけ待ったのだから、visaの件はどちらでもやむをえない。人の決めることはなるようにしかならない。ロシア的な官僚主義の非効率なんだろうね。協力も何もないではないか。一方的に要求するだけで、やることをやってくれない。対応が遅すぎる。努力はするが、あまりに非力だ。誇大妄想はしないで、できることを限定して、人生を楽しんだほうがよいのかな。政治家でも役人でもないのだから。インドに来て、ちょっと反対に、discouledgeされてしまったようだ。830aに朝食を取って、少し休み、1000a前にUzbek大使館に行った。結局、半年先のことについてvisaは出ないということになった。どうしても行くのなら、旅行会社を通じてやってみるしかないのだろう。そのままHotelに戻って読書し、荷物をパックして、早朝に備えることにした。

96-12-6

Hotel代は20%のtaxで10万円くらい払った。腹立ってきたな。結局visaとれずに、無駄になったのだから、もうUzbekに行くのはやめようかな。Uzbekで使う分はもう使ってしまった。先方から尖戸さんから反応があったら考えるとして、そうでないならやめよう。Taxiは予約しておいたし、早めに夕食に行って、さっさと寝よう。4a起きだから。4aに起き、準備。530a頃に空港に着く。Flightは問題なし。多少ゆれたが、雲が多く、無事定刻、908aにBangaloreに着く。道路がひどく込んでいたので、Yelahankaに戻ったのは、1130a頃になった。安全にフィールド調査ができたことに感謝したい。〈考察〉tribals=遅れているとか貧乏というのはおかしい。結果として今はそうなっているだけで、彼らはずっと貧しかったわけではない。貨幣経済に組み込んだ場合、正確に言うのなら、組み込まれた場合に、一方的に貧しい位置に落ちることになる。環境文化の中に暮らしてきたことが、何故遅れているといわれなければならないのか。画一的な文明観によってのみ、遅れているということではないか。何かを持って遅れているなどと、いえるものではない(96-11-30)。人口圧の一方で、時々襲う早魃を忘れるわけにはいくまい。貨幣経済の論理に少なくとも、環境文化は抵抗の視点として考えてみたい。早魃 — 出稼ぎ — 都市のスラム拡大。農村は人口を出しすぎて、反対方向の人口吸収力を弱めてしまっ、これは不可逆的なことで、もう一度、特に山村が人口を受け入れることは不可能なことではないのか?(69-11-30) 経済換算に対する環境文化の抵抗の視点。貧民の食べ物としてあったのではなく、環境の中での食文化であった。都市文明が優勢を極めた時に、それは貧民との位置にされた。3大穀物の一部品種が世界を支配したとしたら、農業生産性の低い地域のmilletsは消滅する。環境文化の多様性が否定され、これは文化的植物に限らず、wildlifeの多様性を現する論理にも繋がる。milletは楽に栽培できて、少なくとも必ず収穫が見込める。

